意見交換会開催結果

開催日	平成２８年４月１４日（木）	開催場所	和泉市コミュニティセンター 1Ｆ　中集会室

【出　席　者】　**（順不同）**　参加団体　１５団体　２２名

Ａグループ

青山委員、あおばお助け隊 、青葉はつが野世代間交流推進委員会、ＮＰＯ法人音楽サポートネット音結 、四季の味覚祭実行委員会、レインボーシード、伯太フェスタ実行委員会

Ｂグループ

笠井委員、ミータスコア・グループ未来、青葉はつが野世代間交流推進委員会、三林柔道育成会、和泉市ディスコン協会、はつが野街づくり推進委員会、伯太フェスタ実行委員会

Ｃグループ

森吉委員、緑ケ丘世代間交流実行委員会、国府校区納涼大会実行委員会、三林柔道育成会、和泉市ディスコン協会、特定非営利活動法人いずみの国の自然館クラブ、

Ｄグループ

黒田会長、緑ケ丘世代間交流実行委員会、国府校区納涼大会実行委員会、泉州信太山盆踊り保存会、レインボーシード、コーラスグループぶどうの木

【件　　名】和泉市市民活動支援制度　意見交換会

【開催の趣旨】

ちょいず制度について参加団体に話し合っていただく例年の意見交換会において、制度の認知度の低さを問題視する声が毎回出ている。今回は団体自身の活動のＰＲに焦点を置くという、従来とは違った切り口から制度を広める手段を模索する。団体間において現在のＰＲ方法を共有する場、団体が今後展開する新たな手段を検討する場、また市がそれらの意見から市として関われる側面を拾い上げる場をつくることを目的として開催した。

【意見交換会方法】

参加者を４つのグループに分け、以下の検討テーマについて、ワークショップ方式で各グループが議論を行う。その後、議論結果について、各グループの代表者が発表を行い、判定会委員より意見を頂く。

【検討テーマ】

活動のＰＲについて

以下の議論結果については、各グループから出た意見を集約しています。

【検討テーマ】活動のＰＲについて

［ 現　状 ］

・自治会や町会を通じて回覧板などを回す。
・広報誌に掲載する。
・子ども達の口コミ
・ホームページ
・チラシ
・ＳＮＳ
・銭湯、喫茶店等でパンフレットを配布する。
・前年の参加者に、郵送で案内を送る。
・定期的に大会を開催する。
・幼稚園、保育所、小学校に講座をしに行く。

［ 課　題 ］

・自治会や町会などの組織をもっていないところはＰＲをやりにくい。
・団体構成員の高齢化。
・投票するつもりの人が投票を忘れる。
・ちょいずという言葉自体を知らない。
・活動内容が知られていない・分かりにくい。
・活動に無関心な層がある。
・届出用紙の使い方が分かり辛い。

［ 解決策 ］

・団体同士の繋がりが出来る交流の場を設ける。
・ちょいず参加団体イベントのスタンプラリーを行う。
・活動が分かりやすい団体名にする。
・投票結果を投票者にきちんと知らせる。
・投票期間を長くする。
・投票用紙を個別訪問で回収する。
・ちょいずの制度をきちんと説明する。

【まとめ】

現段階において行われているＰＲでは、地縁のある団体は地域のつながりによるところが大きかった。また、そのようなツールを持っているところも持っていないところも、パンフレットや案内状など紙媒体の宣伝を行う、大会や講座を定期的に行うことで活動を見てもらう場を増やす等、自主的に様々なＰＲ活動をしていることが分かった。しかし、ちょいず制度を知らない層や団体の活動に関心を示さない層がまだまだあるという現状を打開するには至っていない。今回の意見交換会においては、お互いのＰＲ活動の手法を教えあう以外にも、複数の団体が共同でＰＲイベントを行う等、現状より更に進化したＰＲ活動を展開する案が出された。

【各判定会委員の講評】

【青山委員】ちょいずを通じて和泉市をもっと元気にしていくことにちょいずの大きな意味があると思っているのですが、地域の課題を解決する為に市民の方が出来ることは二種類あると思います。

一つは寄付という形で、もう一つはボランティアという形です。ボランティアは社会貢献の要員と言われていますが、人をどう巻き込んでいくかが重要です。巻き込みの法則というのを、皆さん聞かれた

ことがあると思います。地域の課題に対する共感、例えば世代間交流が少なくなってきている、自然が少なくなってきていることに対し、なんとかしたいと共感していただくという事と、解決策に対して納得していただくという事が大事だと言われています。説得ではなく納得です。共感と納得をどんなふうにして得られるかが、この活動のＰＲ方法の重要な部分と思っています。各団体で自分たちの活動のクオリティを高めていただいて、しっかり成果を出していくというのが一つです。しかし、なかなか各団体だけで出来ない事もたくさんあると思います。そこはやはり、お互いまず知り合って、遺伝し合えるような事が大事ですし、それを発信できる場所を皆で作っていくのも大事です。ちょいず祭り等、実行委員会形式で、みんなで盛り上げていく仕組みが出来たらいいという話も出ました。制度そのものを盛り上げていく為にも、団体の皆さんにももっとたくさん参加をしていただける機会を作っていけたらいいと改めて感じました。

【笠井委員】活動ＰＲということでザクッとしたテーマだったのですが、内容的には具体的に得票率をどうやって上げていくかということに話の重点が置かれたように思います。他の団体のやり方、ＰＲの仕方をいろいろ話していただいて、自分の団体に持ち帰っていただいて得票率を上げる方法になれば持って帰ってもらっていいかと思います。

Ｄグループですが、ちょいず全体の事で苦言をいただいて、判定会委員として初めて聞く事もあったので、参考にさせてもらいます。

【森吉委員】事業費をなんとか当初の予算枠通り確保して、事業を計画通りまっとうしていきたいという目的を皆さんが持っておられると思います。市としては市民税１パーセントという謳い文句でいっていますが、まだまだそこまで届いていない、制度が市内に浸透していないというのが現状です。市として、参加団体を３０から増やしていきたい、また届出数も増やしていきたいと思っておりますし、判定会員の皆さんも同じ気持ちになっていただいています。

現状としては、市が広報やホームページで一定のＰＲはしております。今回は、団体の方自身が実施しているＰＲ活動を出していただきました。それぞれ口コミであったり、手作りチラシであったり、ＳＮＳという媒体を使ったり、いろんな形で皆さん頑張っていると感じました。泉州信太山盆踊り保存会さんの、いろんなイベントに顔を出して活動することで広めていく方法は今日初めてお聞きして、面白いと感じました。しかし、まだまだ無関心な市民が多い、また市民に分かりにくいという点等が大きな課題で、それを今後どのように改善していくかについて様々な意見が出ていました。面白く感じたのは、主催者が一所懸命頑張るのではなくて、参加者をどのように募っていくかを考えるという意見です。参加者を募る事によって、その参加者がちょいず自身に興味を持っていただいて、新たな事業に繋がっていくという話を、非常に興味深くお聞きしました。さらに市としての役割として、まだまだ制度の認知度向上も至っていないと考えていますので、ここは事務局と相談しながら、判定会委員の皆さんにも相談させていただきながら、ますます拡大していきたいと感じました。

【黒田会長】今日のテーマ「活動のＰＲ」についてということですが、ＰＲは何の略か知っていますか？　パブリックリレーションズというそうです。パブリックは公共、リレーションズは関係作りです。一般的にＰＲは宣伝というイメージがありますが、ＰＲするというのはいろんな関係を繋げていくということが本来の意味のようです。今回話を聞かせていただいて、皆さんが、人と人、団体と票、世代間等様々なものを繋げる役割をしておられると感じました。

ちょいずの制度の仕組み自体はかなり安定してきたと思うのですが、ちょいずの認知度が低いとか自分たちの活動を知ってもらいにくいとかという課題があります。それは伝えることの難しさからくるのではと思いました。とてもいい活動をしているが、自分がコマーシャルするわけでもなく、どのように伝えたらいいのか難しい状況もあります。また、若い人たちが中心になっている活動をホームページやブログ、ＳＮＳで宣伝しても、高齢者の方は見られないという世代間を越しての伝える難しさもあります。私たちは普段、テレビ、雑誌、新聞で一方的に情報をもらっているので、それが世の中の情報の大

多数だと思ってしまいます。しかし、私たちが住んでいる和泉市の中でも、様々な活動があり、様々なニーズがあり、それを支援されている方々がいます。そういう人たちの情報をどう伝えていくのかが大事ですし、その情報をもらって、その場ですぐに投票に結びつけられるような、投票のしやすさみたいなのも大事だと思いました。ちょいずを知ってから、どこに投票するのかという行動パターンはこれ以上伸びないのではないかと今日の話で思いまして、それより、自分たちはこんな活動をしているが、興味を持ったら投票してほしいとお願いして、その場で投票に繋がる仕組みが考えられたら、ちょいずの仕組みが広がっていくと同時に得票数も伸びていくのではと思いました。役所の方も含めて、これからの制度の運営等に反映できたらと思っていますので、今後とも協力をお願いします。